



Photostud

## THE NAKAYAMA DAISHOGAI

## 第148回 農林水産省賞典 中山大障害 (J・GI)

1着 2着 3着 4着 5着  
本賞 70,000,000円 28,000,000円 18,000,000円 11,000,000円 7,000,000円  
付加賞 357,000円 102,000円 51,000円



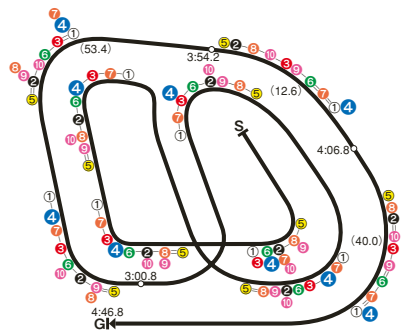
レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬  
負担重量 3歳61<sup>kg</sup>・4歳以上63<sup>kg</sup>、牝馬2<sup>kg</sup>減

2025.12.27 中山 曇・曇 芝4100<sup>m</sup> (国産)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	平均 1ハロン	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師
1	④	エコロデュエル	牡	6	63	草野太郎	4:46.8	2-2-1-2	14.0	480(-2)	1.5①	岩戸孝樹(美浦)
2	①	ネビーイーム	牡	7	63	小牧加矢太	5	1-1-2-1	14.0	530(-6)	3.7②	佐々木昌三(栗東)
3	⑦	フェーレンベルク	牡	5	63	上野 翔	1½	3-2-3-3	14.0	482(+6)	10.6④	千葉直人(美浦)
4	⑥	ジューンベロシディ	牡	7	63	高田 潤	4	5-5-4-4	14.1	470(-2)	5.3③	武 英智(栗東)
5	⑨	ブラチナドリーム	牡	6	63	石神深一	7	8-7-5-5	14.1	484(±0)	73.6⑥	菊川正達(美浦)
6	③	ピーターサイト	牡	5	63	森 一馬	½	4-4-6-6	14.1	478(-2)	29.7⑤	村田一誠(美浦)
7	⑩	メイショウアツイタ	牡	7	63	難波剛健	2	5-6-7-7	14.2	510(+2)	101.3⑦	高橋義忠(栗東)
8	⑧	アルデッドオーモ	牡	4	63	伴 啓太	クビ	8-7-8-9	14.2	496(±0)	163.9⑨	矢野英一(美浦)
9	②	タマモエース	牡	6	63	小野寺祐太	クビ	7-7-9-8	14.2	488(-4)	138.0⑧	宮地貴稔(栗東)
10	⑤	タンジェントアーク	騾	7	63	五十嵐雄祐	¾	10-10-10-10	14.2	448(+10)	206.1⑩	田村康仁(美浦)

単勝④150円(1½<sup>kg</sup>) 複勝④110円(1½<sup>kg</sup>) ①110円(2½<sup>kg</sup>) ⑦140円(4½<sup>kg</sup>) 枠連①-④220円(1½<sup>kg</sup>)  
馬連①-④220円(1½<sup>kg</sup>) ワイド①-④130円(1½<sup>kg</sup>) ④-⑦230円(3½<sup>kg</sup>) ①-⑦320円(5½<sup>kg</sup>)  
馬単④-①300円(1½<sup>kg</sup>) 3連複①-④-⑦550円(2½<sup>kg</sup>) 3連単④-①-⑦1,070円(3½<sup>kg</sup>)



上り1マイル: 1:46.0 上り: 800<sup>m</sup> 600<sup>m</sup>  
52.6 - 40.0

### アラカルト

- ・草野太郎騎手は中山大障害初勝利。JRA重賞は25年2勝目、通算6勝目
- ・岩戸孝樹調教師は中山大障害初勝利。JRA重賞は25年2勝目、通算9勝目
- ・キタサンブラック産駒はJRA重賞通算24勝目
- ・同一年の中山グランドジャンプ&中山大障害の勝利は16、17年オジュウチョウサンに続く通算4回目
- ・6歳馬の勝利は22年ニシノデイジーに続く通算24回目

# エコロデュエル *Ecoro Duel*

牡 青鹿毛 2019.5.4生  
北海道日高町 下河辺牧場生産  
馬主・原村正紀氏 美浦・岩戸孝樹厩舎  
馬名意味・冠名＋決闘

キタサンブラック 鹿毛 2012	ブラックタイド 黒鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	シュガーハート 鹿毛 2005	サクラバクシンオー オトメゴコロ
クラリネットUSA Clarinet 鹿毛 2007	Giant's Causeway 栗毛 1997	Storm Cat Mariah's Storm
	Legs Lawlor 鹿毛 2002	Unbridled Evil Elaine

5代までのインブリード：Lyphard S5×S5

## INTERVIEW

下河辺行雄 社長(下河辺牧場)

### 積極的で強いレースをしてくれました

ネビーイームとの競り合いにはドキドキしましたが、平地の脚もある馬なので最終障害を飛越した後は比較的安心して見ていられました。積極的で強いレースをしてくれたと思います。牧場にとってこのレースが25年のJRA70勝目にあたり、大レースで一年を締めくくることができ、牧場全体がよい雰囲気になりました。26年も活躍してくれることを願っています。



Y.Machida

秋の始動戦の東京ハイジャンプ(2着で眼に外傷を負い、レース後の数週間は入院馬房で療養を余儀なくされたという本馬だが、ギリギリのタイミン(岩戸孝樹調教師)で怪我が癒えてからは、順調に調整を進められたそう。こうして迎えた大一番、アクシデントの影響をまったく感じさせない走りですがの貴族を示し、アップトウデイト、オジュウチョウサンに続く春秋制覇を成し遂げた。

## 父キタサンブラック

北海道日高町 ヤナガワ牧場生産 中央20戦12勝(ジャパンC<sup>G1</sup>、菊花賞<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、天皇賞(春)<sup>G1</sup>2回、天皇賞(秋)<sup>G1</sup>、大坂杯<sup>G1</sup>、京都大賞典<sup>G2</sup>、スプリングS<sup>G2</sup>)、年度代表馬2回、最優秀4歳以上牡馬2回、18年から供用〔代表産駒〕イクイノックス(ジャパンC<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、天皇賞(秋)<sup>G1</sup>2回、宝塚記念<sup>G1</sup>、ドバイシーマクラシック・首<sup>G1</sup>、東京スポーツ杯2歳S<sup>G2</sup>、日本ダービー<sup>G1</sup>2着、皐月賞<sup>G1</sup>2着)、クロウデュノール(日本ダービー<sup>G1</sup>、皐月賞<sup>G1</sup>2着)、ソールオリエン(皐月賞<sup>G1</sup>、京成杯<sup>G2</sup>、日本ダービー<sup>G1</sup>2着)、ウィルソントーロ(JBCクラシック<sup>JhI</sup>、マイルチャンピオンシップ南部杯<sup>JhI</sup>)、エコロデュエル(本馬)、ガイアフォース(セントライト記念<sup>G2</sup>、富士S<sup>G2</sup>)、スギルヴィング(青葉賞<sup>G2</sup>)、他に重賞勝ち馬多数

## 母クラリネットUSA

北米11戦4勝(フレイミングペイジS・加L)、13年輸入  
ブラタナスロード(14 牝父ディーブインパクト)不出走  
ファゴット(15 牝父ディーブインパクト)中央3戦0勝  
ハーツシンフォニー(17 駟父ハーツクライ)中央18戦0勝、障害18戦2勝  
シャムブル(18 牝父ハーツクライ)中央28戦4勝(シャングリラス・柏崎特別)、地方4戦0勝

エコロデュエル 本馬(19 牝父キタサンブラック)中央10戦1勝、障害14戦5勝(中山大障害J<sup>G1</sup>、中山グランドジャンプJ<sup>G1</sup>、京都ジャンプS J<sup>G2</sup>、中山大障害J<sup>G1</sup>2着、東京ハイジャンプJ<sup>G2</sup>2着2回、阪神スプリングジャンプJ<sup>G2</sup>2着、中山大障害J<sup>G1</sup>3着)  
獲得総賞金312,787,000円

クラリティー(22 牝父サトノダイヤモンド)中央4戦0勝、地方4戦3勝  
※16、21、23、24、25(不受胎)、20(前年種付せず)

## 祖母レッグズローラー Legs Lawlor

アメリカ産 愛1勝

## クラリネットUSA(07 前出)

リサージェンス Resurgence(10 牝父Awesome Again)北米4勝

## 曾祖母イーヴィルエレイン Evil Elaine

アメリカ産 北米4勝(コナドS・L、スクールキルS2着、ニューホープS2着)、フェイヴァリットトリック Favorite Trick(B Cジュベナイル・米<sup>G1</sup>、ホープフルS・米<sup>G1</sup>、米年度代表馬、種牡馬)の母、ムーンシャインメモリーズ Moonshine Memories(シャンドリアS・米<sup>G1</sup>)の祖母

## ワンサイドの完勝で春秋J・GI制覇

ジャンプ界の1年を締めくくると喜ぶの大一番・中山大障害は、4月の中山グランドジャンプを8馬身差で圧勝したエコロデュエルが圧倒的な支持(単勝1・5倍を集めた。ソレイユジャンプS、阪神ジャンプSを連勝中の勢いに乗り、春の雪辱を期すネビーイームが対抗候補、10月の東京ハイジャンプでエコロデュエルを下し、障害重賞6勝目を挙げたジュンペロシティが2頭に続く存在と目されたものの、王者は一枚も二枚も上の底力をアピール。ワンサイドの完勝劇を演じ、歴代3頭目となる同一年の春秋J・GI制覇を達成した。

最初の難関・大竹欄障害、中盤に待ち受ける大いけ垣障害も全馬、無事にクリア。軽快に風を切ったネビーイームはここから後続を引き離しにかかったが、そうはさせじと草野騎手も早めに追撃、3コーナーの竹欄障害で逃げ馬の外に並びかけ、長い一騎打ちが幕を開ける。直線半ばにかけて併せ馬の形で激しく火花を散らした2頭。とはいえ懸命に応戦したネビーイームは坂の上りで力尽き、抜け出したエコロデュエルが最後は5馬身差をつけてゴールを駆け抜けた。